

# 带状疱疹予防接種について

観音寺市健康増進課

下記の事項をよく読んで予防接種を受けてください。

## 1. 带状疱疹について

带状疱疹は子どもの頃に感染した水痘・带状疱疹ウイルスが神経節に潜み、過労やストレス、加齢など免疫が低下した際に再び活性化して発症します。50歳以上になると発症する人が増加し、80歳までに約3人に1人が発症すると推定されています。

発症すると体の左右どちらかの神経節に沿って、痛みを伴う発疹と水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。皮膚症状が治った後も、50歳以上の約2割の方に带状疱疹後神経痛（PHN）と呼ばれる痛みが長期間続くことがあります。

## 2. 带状疱疹ワクチンの種類について

带状疱疹予防を目的として接種できるワクチンは以下の2種類です。

種類	乾燥弱毒生水痘ワクチン 「ビケン」(生ワクチン)	乾燥組換え带状疱疹ワクチン 「シングリックス」(不活化ワクチン)
接種回数	1回	2回 (1回目の接種から2か月の間隔をおいて、2回目の接種を行う。1回目の接種から2か月を超えた場合であっても、6か月後までに2回目の接種を行う。)
接種方法	皮下注射	筋肉注射
発症予防効果	1年後で6割程度 5年後で4割程度	1年後で9割以上 5年後で9割程度 10年後で7割程度
頻度10%以上の副反応 (*ワクチンを接種した部位の症状)	発赤*、そう痒感*、熱感* 腫脹*、疼痛*、硬結*	疼痛*、発赤*、筋肉痛、疲労、頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
重大な副反応 (いずれも頻度不明)	アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群
接種費用 (助成なしの場合)	8,000~10,000円程度/回	20,000~30,000円程度/回
他の予防接種との 接種間隔	他の注射生ワクチンとの接種間隔は、27日以上あける。	間隔の規定なし。

**※乾燥弱毒生水痘ワクチン(生ワクチン)は、明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する人及び免疫抑制をきたす治療を受けている人、妊娠していることが明らかな人は接種を受けることができません。**

出典：厚生労働省ワクチン分科会資料、取扱説明書（乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」、乾燥組換え带状疱疹ワクチンシングリックス筋注用）、厚生労働省带状疱疹の予防接種についての説明より

### 3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかな発熱がある人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 過去に帯状疱疹予防接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
- (4) 生ワクチンの場合は、明らかな免疫機能に異常のある疾患を有する人及び免疫抑制をきたす治療を受けている人、妊娠していることが明らかな人
- (5) 上記に掲げる人のほか、予防接種を行うことが不適切な状態であると医師に判断された人

### 4. 予防接種を受ける前に担当医師とよく相談しなくてはならない人

- (1) 心臓血管系、腎臓、肝臓・血液などの基礎疾患のある人
- (2) 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた人、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられる人
- (3) このワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある人
- (4) 過去にけいれんを起こしたことがある人
- (5) 過去に免疫不全と診断された人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- (6) 血小板が少ない人や出血しやすい人
- (7) 妊婦または妊娠している可能性のある人、授乳中の人  
(生ワクチンの場合、妊娠中の接種はできません)
- (8) 最近 1 か月以内に予防接種を受けた人

### 5. 予防接種後の注意事項

- (1) 接種後に失神が起こることがあるので、接種後 30 分程度は医療機関に留まるなどして様子を観察し、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種当日は激しい運動を避け、接種部位を清潔に保ってください。接種当日の入浴は、差し支えありません。
- (3) 接種後に接種部位の異常な反応や体調に変化を生じた場合、高熱、けいれんなどの異常な症状があらわれた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

### 6. 任意接種による健康被害時の対応について

帯状疱疹予防接種は任意接種であるため、万一、被接種者に健康被害が生じた場合、予防接種法による健康被害救済制度の対象にはなりません。独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象になることがあります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）等をご覧ください。